

---

 雑 録
 

---

## 本會贊助會員故水橋義之助君之略歴

君は明治五年十一月東京日本橋區小傳馬町に生れ、三十七年四月先代寅吉氏を嗣ぎて家督を相續し、家業たる鋼鐵問屋の營業に精勵し、故田中長兵衛氏と親交を結び、釜石鑛山の製品たる鉄鐵及鐵鑄管の一手販賣權を握りて大に斯界に活躍せられたり。昭和五年三月獨逸アーサー・クラブ會社のニッケル、ステンレス・スチール、アルミニウム等の製品に付、本邦に於ける一手販賣權を獲得せられたれども、未だ其の進展を見るに到らずして、同年五月三日遂に永眠せらる。

君人と爲り鷹揚溫雅にして些細の利に齷齪せず、而かも機を見て能く斷じ、大勢に順應するに敏なりき。君風雅に富み、書を西川春洞に學び、號を義軒と稱し夙に一家の域に達す。晩年又繪畫に嗜み、池上秀畝門下に師事せり。書畫骨董の藏品稀に見る物少しとせず。又建築及劇に關する趣味を有し、造詣淺からず。

君二男一女あり。長嗣子勝也君家督を相續し、家業の發展に精進せらると云ふ。

茲に略歴を掲げ謹で弔意を表す。

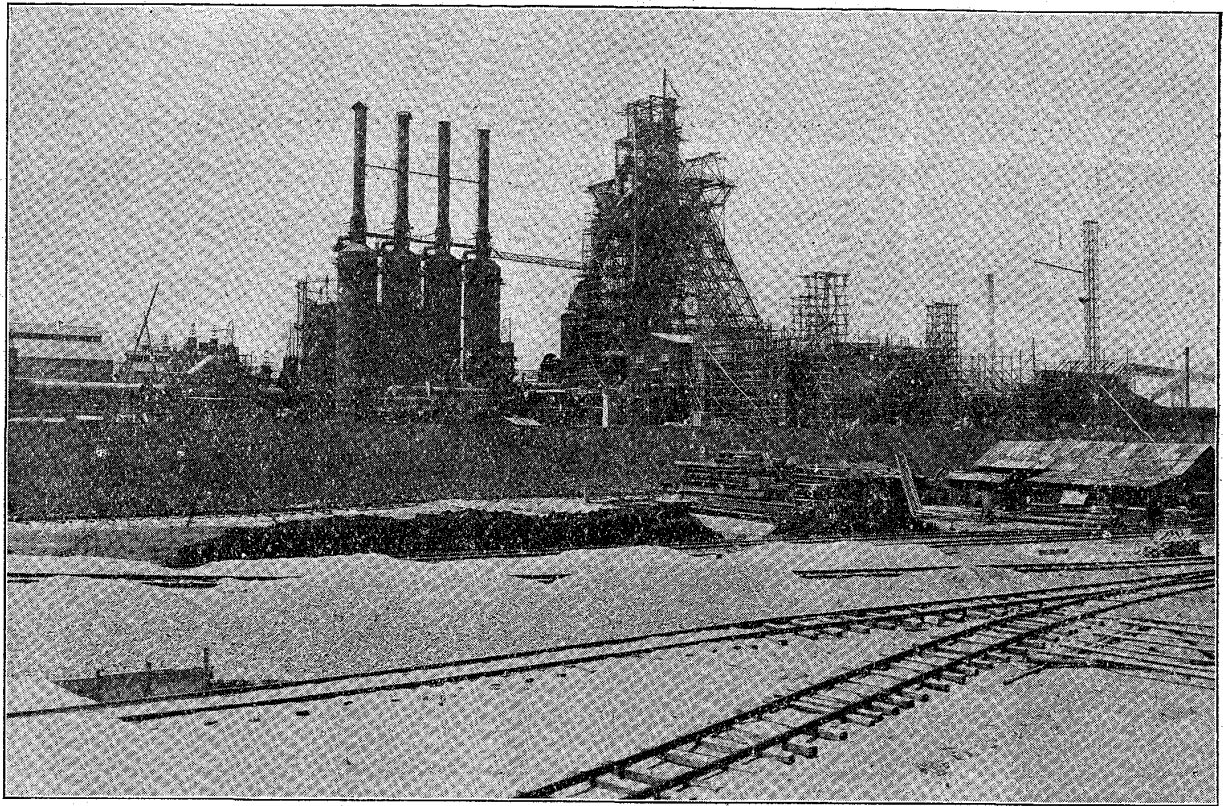
昭和五年五月

日本鐵鋼協會

**富士製鋼株式會社新式平爐** 富士製鋼株式會社にては從來の 15 噸平爐 1 基を新式に改造し昭和 5 年 4 月中旬より操業せり。其結果頗る良好にして 5 月 20 日迄に已に 100 回以上を熔解したれども天井、噴出口、爐底及び上昇道等は何等の故障を見ず。爐底はマグネシヤを使用し、噴出口は何等水冷却装置を施さず。瓦斯の燃焼は極めて完全に行はれ、従つて爐内溫度も高くして操業容易になり不良鋼塊を生ずること無きに至れり。尙操業時間は改造前に比し平均 1 時間を短縮し、最短時間は 4 時間半なり。又燃料使用量は約廔當り 100 kg を節約し得たり。

**建設中の八幡製鐵所洞岡第一鑄鑄爐** 先年來新築中なる八幡製鐵所の五百噸鑄鑄爐は將に其工を終へ、6 月中には吹入をなさんとす。寫眞は 5 月 7 日撮影せるものにして、中央は鑄鑄爐、左方は 4 個の熱風爐、其背に瓦斯溜あり。舊鑄鑄爐工場より直徑 1.2m 延長 2,500m に達する鐵管にて、瓦斯を輸送し、4 月末より日々瓦斯送風機の試運轉中なり。右方前面足場のあるは鑛石庫、骸炭庫等の鐵

筋コンクリート築造中なり。瓦斯溜の側にコットレル電氣收塵機を設け其基礎築造中なりとす。



英領馬來の鋼・鐵管類需給狀況 (海外經濟事情 3の14・31 頁より抜萃) 鑄鐵管のみに對する統計なき爲其需給狀況詳ならざるも、近年領内諸都市の上水道工事其他各種都市計畫の進捗及主要都市に於ける近代式大建築の増加、各種事業の勃興等に伴ひ鋼管、鐵管等の需要漸次増加を見つゝあることは、其輸入高が逐年増加しつゝある事實に徴し明に之を觀取し得らる。

○英領馬來の鋼、鐵管類輸入高

仕 出 國	1928年		1927年		1926年	
	噸	弗	噸	弗	噸	弗
英 本 國	23,800	3,012,929	19,367	2,728,611	20,100	2,622,436
英 白 耳 義	354	59,696	337	61,459	1,052	188,814
佛 蘭 西	46	4,841	943	267,341	86	9,018
和 蘭	978	290,320	467	100,737	217	52,269
米 國	47	8,539	279	59,407	253	59,057
其 他	313	67,156	346	91,729	110	31,104
計	25,547	3,443,481	21,739	3,309,285	21,818	2,962,700

○同再輸出高

仕 向 國	1928年		1927年		1926年	
	噸	弗	噸	弗	噸	弗
英領北ボルネオ	28	7,492	16	4,061	52	12,761
サラワク	36	11,081	30	9,370	41	11,958

英領印度及ビルマ	2	811	3	834	45	13,140
蘭領東印度	30	10,443	19	8,855	114	41,544
シヤム	249	55,377	57	19,020	48	17,249
其他	8	2,124	21	9,496	47	7,426
計	353	87,328	146	51,636	318	104,078

上の如く近年當領への鋼管鐵管類の輸入高は年額三百萬乃至三百四、五十萬弗見當に上つて居るが、一方其再輸出高を見るに一年僅に六、七萬弗乃至十萬弗見當を出でないので、前掲の輸入品は大體に於て殆ど全部領内需要と見て差支なく、而して之を國別に見れば英國品は矢張總輸入高の9割内外を占めて居るが、之は斯種鐵管類を要する諸工事が大半政府筋の事業に屬することゝ、又民間諸企業も英國系統に屬するもの最優勢にして、就中建築會社の如きは其大部分が英人經營に屬する等の關係にて、其使用材料の如きも専ら英品第一主義を執りつゝあるに基因するものかと察せられるが、兎に角當英領馬來に於ては常に鐵管類に止まらず一般金屬製品特に各種機械及其附屬品等は從來英國品を以て殆ど市場を獨占し來たれるもので、自然一般需要者の側に於ても傳統的に之が使用に馴れ居る等の關係もあり、旁々如上の製品に就ては英品の地盤は牢固として抜くべからざる觀を呈して居る。

**ザール流域の製鐵業** (海外經濟事情 3 の16, 45 頁より抜萃) 製鐵業最近の鐵生産量次の如し。

(單位噸)

年次	銑	鐵	銅	年次	銑	鐵	銅
1929	2,104,940		2,208,909	1927	1,770,718		1,894,629
1928	1,936,184		2,073,051	1926	1,370,980		2,080,000

戦前はザール製鐵業者は鉄鐵の大部分をローレンス州より供給を受け居たりしが、現在に於て上記の如く多量の産出を見るに至れり、鋼に關しては左したる發展を遂げ居らず、漸く1929年に至り戦前の記録を超えたり、而して前記1929年の鋼の生産量中74%はトーマス鋼にして、26%はマルチン鋼なり。又延鐵(laminé)は1,602,724噸にして内譯次の如し。

鐵道材料	229,870	薄板	96,696
圓柱	252,304	管	83,766
マーチャントスチール	497,314	鑄鐵用具	4,007
帶鐵	120,397	其池	636
ワイヤロッド	157,100	計	1,602,724
厚板	160,634		

**歐洲鐵鋼カルテル組織變更** (海外經濟事情 3 の17, 9 頁) (昭和5年3月6日附在フランス河合臨時代理大使報告) 歐洲鐵鋼カルテルの組織變更に關し、當地ジュルナル・アンドストリエル紙の傳ふる處に依れば、其大綱次の通り。

組織變更の内容 組織變更の内容は大體(1)鐵鋼協定の有効期間の延長、(2)國際販賣勘定の設定、(3)輸出量割當制度の設定。

上記の内(1)及(2)に關しては來る3月13日巴里に於て開かるべきカルテル幹部會に於て確定を見るに至るべき趣の處、獨逸側は協定の有効期間を10年間とし、獨逸國內の粗鋼カルテルの有効期間と一致せしめ度希望を表明し居れり。國際販賣勘定は本年7月1日より實施せらるゝと云ふ。

國際販賣勘定の設定には鮮からざる困難あるも、獨逸に於ては粗鋼生産者間に於ける國內販賣勘定已に成立し居り、ルクサンプルクも之を有し、白耳義に於ては本年1月15日を以て鋼の販賣勘定成立し、佛國に於ても殆ど全部の粗鋼に付販賣勘定存するを以て、此等を一團とすれば國際販賣勘定は直に成立する次第に付左程の困難を伴ふものにあらざるべし。(3)の輸出量割當制度は既に2月1日より暫定的に活動を開始し居れり。

輸出量割當制度の設定 以上に掲ぐる三箇の新制度中輸出量割當制度に關し少しく詳細に掲げむに、目下決定せられ居る處に依れば、輸出量割當制度は下の五箇の國際勘定を設け、各勘定には統計部と監視部とを置く。(1)半製品勘定、(2)バーに關する勘定、(3)ビームに關する勘定、(4)厚板に關する勘定、(5)葉鐵に關する勘定。

半製品勘定に關しては本部をブラツセルに置き、其他の勘定に關しては本部をルクサンプルクに置く。

各勘定の本部は加盟國の國內勘定本部より送付に係る各種報告を集中し、且各加盟者が其割當られたる分量を嚴守せるや否やを監視し、重要なる問題起るときはカルテル幹部會に諮るものとす。要するに本制度の主要なる目的は各加盟國に割當られたる輸出割當量の勵行を企圖するにあり、而して輸出割當量は1928年及1929年の1月より10月迄の輸出量を基礎として計算せらる。

各加盟國の内地に於て販賣すべき量はカルテルの幹部委員會が、當該國に對し割當たる生産量より割當輸出量を控除したるものとす。尤も輸出割當量は國內販賣量の増減に應じ一定の割合にて増減す。即ち内地販賣量に減量を來したる場合には、輸出割當量をその減量の5割丈増加す。(佛蘭西のみは6割を増加す)

又内地販賣量が増加したる場合は増加量の5割を輸出量より減す。この率にて増減を施すも輸出量に對する増率は如何なる場合に於ても割當輸出量の2割5分を超ゆることを許さざるものとす。(佛蘭西に限り3割5分とす)

若し各加盟國が規定の輸出量を超え輸出したる場合は、次の率に依り賠償金を支拂ふものとす。

5%以下の場合	噸當	5志
5%を超えたる場合	鐵板に對しては噸當	10志
	其他のものに對しては同	15志

又若し加盟國が引續き割當輸出量を超過し輸出するときは、カルテル幹部會は更に多額の罰金を課する事あるべく、之に對し抗辯し得ざらざものとす。この賠償金は割當輸出量を輸出し得ざりし他の加盟國に分配せらるべきものとす。

輸出量割當制度の開始 輸出量割當制度は暫定的に本年2月より開始せられ居れるが、既に下の2箇の措置を採れり。(1)獨逸佛蘭西及ルクサンプルクの企業者は、2月1日より2月15日迄白耳義企業者の利益の爲に各其輸出を停止せり、之は白耳義に於ける鐵企業の最近の不況に鑑み、之を救は

むとの趣旨及斯くして若干海外に於ける鐵價を引上むとの目的に出づ。(2) 2月13日ブラツセルに於て會合を開き、輸出基礎價格を引上ぐることを決議せり、即ち

半製品に對しては	2 志
バーに對しては	2.5 志半
鐵板に對しては	4 志

宛を各引上ぐることをせり。

この結果アンヴェルス F.O.B バーの輸出價格は105志より107志6片となり、昨年10月5磅なりしに比し著しく昂騰せり。但し本年1月に於ける最高價格6磅5志に比すれば著敷低廉なり。

輸出量割當制度の效果 輸出量割當制度の效果に付ては今直に論斷し難きも國際販賣勘定と相俟ち今後カルテルの勢力は愈々増大すべく、殊に前項の如くカルテルの發意に依り市價を調整し得たるに鑑み、將來の活動は容易に之を推知し得。

1926年鐵鋼カルテル成立當時カルテルの主要目的として考慮せられたる、内國價格と輸出價格との開き除去の問題は、輸出協定の成立せざりし爲今日迄其儘となり來りたるが右輸出量割當制度の確立に依り之を實現し得る次第なり。

**アルミニウムの世界生産高** (1928年) (海外經濟事情 3の19,62頁) (昭和5年4月3日附在ベルリン長井商務書記官報告) アルミニウム世界生産及消費は1928年は1913年の約3倍となれり。而して北米合衆國の生産は戦前に比し約400%増加せる處、其消費は300%の増加に過ぎず。

鐵礬土 (Bauxite) の世界生産は1923年に於て69,200噸なりしが、1928年は1,735,000噸に増加せり。而してこの鐵礬土生産量中の三分の一はアルミニウム生産に充てられ居るなり。

鐵礬土の生産の第一位にあるは佛蘭西にして、1928年に588,362噸を生産し、北米合衆國 375,426噸にして第二位にあり。

匈牙利、伊太利及ユーゴスラヴアの合計生産高 392,500噸、英領グイアナ及蘭領グイアナの合計生産高 361,000噸なり。

尙本鑛石の加工には安價なる電力に據ること有利なる關係上、アルミニウム工業に適せる國は水力電氣を起し得る加奈陀、諾威、瑞西等を擧ぐべきなり。而して北米合衆國も亦水力電氣を起し得る國なるを以て、アルミニウム生産國として主たる國の一たる所以なり

アルミニウム世界生産高は1927年に於て194,700噸なりし處、1928年は221,400噸に増加せり。

本生産額 221,400噸中其主生産國は次の如し。(單位噸)

北米合衆國	74,700	佛蘭西	22,600
加奈陀	39,500	諾威	18,700
獨逸	29,600	瑞西	19,700

尙英國、伊太利及奧地利のアルミニウム合計生産は僅に 12,000 噸に過ぎざるなり。

**支那に於ける螢石の産出狀況** (海外經濟事情 3 の 19, 64 頁) (昭和 5 年 4 月 11 日附在上海橫竹商務參事官報告) 螢石の原産地としては浙江、湖北省等を擧げらるゝも、上海に出廻る螢石は主として、浙江省産にして、其産地としては湖州府、義武縣、武義縣、金華府、新昌及寧波、常山、象山諸縣等有名なり。

年産額は詳ならざるが上海に於て最著名なる璋華礦丁鎮東氏の談に従へば次の如し。

地 名	年産額	地 名	年産額
湖州府	1,000 噸	新昌	2,000 噸
義武縣	3,000 "	常山	200 "
武義縣	3,000 "	象山	300 "
金華府	掘盡したる由	諸山	400 "

上の如くなるが産額は需要の多少に依り増減しつゝあり、而して其埋藏量は未知數なるも今後三、四十年間繼續採掘せらるゝものと觀られ居れり。

現在の産地々元市價次の如し。

湖州府産	17 元	新昌産	25 元
義武縣産	18 元乃至 19 元	常山産	12 元乃至 13 元
武義縣産	同 同	象山産	14 元

當地市價は上海日曜港停車場渡次の如し。

一等品	螢石含有量 90 % 以上	28 元
二等品	同 85 "	26 元
三等品	同 80 "	23 元

上の如く大體に於て當地に於ける市價は需要の最多き 2、3、4、5 月最高く 9、10 月又稍々高く 6、7、8 月は夏季需要減の爲如上市價より一、二元安きものゝ如し。

品質は各産地に因り各々異なるも新昌最良好にして含有量 96 % を有し、次は義武縣、武義縣にして 80 % 以上を、常山、象山産は品物劣惡の爲本邦には輸出され居らず、専ら本邦向として義武縣武義縣産の三等品所が輸出され居るものの如し。

本品の採掘季は雨量多き夏季にして七、八月の交出廻最多し産地迄の距離杭州より約五百支里にして、山上より蘭溪 (100 支里) 迄は筏にて、又同地より閘口 (杭州の別名 400 支里) 迄は小舟にて搬出され居れり。

而して山元より上海迄の運賃は次の如し。

山元より杭州迄噸當	0.50 元
杭州より上海迄每車 25 噸積(税込)	32.24 "
貨車よりの郵賃每車 25 噸積(税込)	1.00 "
印花稅	0.20 "

杭州に於ける在荷は普通三四千噸なりと稱せらる、礦山主は璋華礦にして資本銀8萬元、杭州太廟巷世一號に本社を、又上海佛租界北象橋歸里二號に支店を有し、本邦は勿論香港、漢口、天津、大連等にも移輸出しつゝあり。

**ドイツ製鋼聯合の成績とドイツ鐵鋼界の合同運動** (海外經濟事情 3 の 19, 72 頁) (昭和5年3月26日附在ハンプルク村上總領事報告) Düsseldorf (German United Steel Works) Die Vereinigte Stahlwerke Aktiengesellschaft. は 1926 年 4 月資本 8 億萬マルクにて設立せられ、獨逸の鐵鋼全産額の 4 割及石炭全産額の約 2 割 5 分を占め、産業合理化の代表的企業と稱すべく、創設後常に作業所機械設備の最新化に努め之が爲に費せし額 3 億マルクに達する由にて、其間毎年 5,200 萬マルクを降らざる純益を擧げ、且 8,000 萬マルクの法定準備金を擁すると共に、2 億 8,200 萬マルク之多額に上る原價償却を爲しつゝあり。同年度末従業員 192,000 人に達し、前記一箇年間の製産額は次の如し。

粗	銅	6,420,000噸(前年 6,950,000噸)	粗	ベンザン	91,000噸
銑	鐵	6,008,000噸(前年 6,520,000噸)		ベンザン	79,000噸
石	炭	27,242,000噸(前年 26,500,000噸)		タールに依る製	126,000噸
コ	ークス	9,630,000噸(前年 9,412,000噸)		産物	
タ	ール	356,000噸		催滑料	4,000噸
アン	モニア	129,000噸			

尙同聯合は其創設當時合併せられたる各種作業所以外に種々の關係事業を有し居り、即ち上部シレジア製鐵業聯合 (Die Vereinigte Oberschlesische Hüttenwerke) なる一聯合の殆ど半部の持株を有する中央獨逸製鋼所の株式 2 割 4 分を保有し、又エツセン炭坑社を併せて年 550 萬噸の石炭を増産し、又中央獨逸製鋼所等と共に 1928 年設立せるデュイスブルグ所在スユタール・ハウス會社 (建築鋼材製作會社) の全株を收め、斯の如くにして製鋼業界に多大の勢力を有し居れり。

因に當國製鐵業者にして何れのシンデケートにも屬せざるもの約 1 割にして、彼等是一部市場に於て賣崩しを試むる餘地ありし爲、シンデケートとしては是等小製鐵業の買収方針を執るに至れり。

Storch and Schöneberg, Geisweider Works, Friedrichshütte, Becker Steel Works, Heinrichshütte, Ammener and Guss-Stahlwerke 等之に屬し之が爲に要せし資金 300 萬磅を越ゆる由、(この内 Geisweider Works の半部はクルツプに歸屬す) にて其後も漸次擴大し居り、是等新併製鋼所に付合理化新式化を計りつゝあり、而して本運動上最重きを爲せるは前記聯合なりき。

世界主要鐵鋼産國 9 月を以て終る最近 3 箇年の製産消長概要次の如くにして、獨逸國に比し他國の製産増加し居れり。(單位千噸)

	1927年	1928年	1929年		1927年	1928年	1929年
獨逸	15,88	15,907	15,140	佛國	8,331	9,067	9,634
米國	45,687	47,297	57,078	白國	3,730	3,836	4,136
英國	7,728	8,461	9,642				

1929 年獨逸の製鐵鋼業界は採算の上好況と認めらるゝも、而も當業者間には合理化に依る折角の

利益も資本の不足、金利の高率にして、而も合理化新陳化の爲借入たる資金多額なる結果、全部之に充當の已を得ざるものあり、且は課税及社會勞働的施設に對する負擔過重にして、經理意外に困難なりと爲すものあり、蓋し事情已を得ざるものと認めらる。

昭和5年3月中外國銑輸入高 單位 噸

輸出國/輸入港	横濱	神戸	大阪	門司	名古屋	其他	計	一月以降計
支那	—	—	—	—	—	—	—	—
印度	11,541	1,785	11,665	2,954	568	—	28,513	69,825
英國	—	133	—	—	—	—	133	747
獨逸	50	1,008	—	—	—	—	1,058	2,517
米國	—	—	—	108	—	—	108	166
瑞典	106	2	—	—	—	—	108	830
白耳義	—	—	—	—	—	—	—	—
計	11,697	2,928	11,665	3,062	568	—	29,920	74,085

備考 大藏省主税局調査の數字は單位擔なるを以て一擔 0.00048 噸の割合にて換算したり。

主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産高調 (單位 噸) 商工省鑛山局

種別	3 月 分			1 月 以 降 累 計		
	昭和5年	昭和4年	比較増減	昭和5年	昭和4年	比較増減
鉄	137,255	128,588	8,667 7%	386,950	388,492	△ 1,542 0.4%
普通鋼	205,340	195,585	9,755 5%	590,219	545,762	44,487 8%
販賣向壓延鋼片	8,846	8,482	364 4%	20,019	25,290	△ 5,271 21%
販賣向シートバー	274	741	△ 467 63%	274	1,590	△ 1,316 83%
普通鋼壓延鋼材	176,432	167,381	9,051 5%	503,517	458,375	45,142 10%
内譯						
鋼板 厚 0.7 耗以下	21,116	16,695	4,421 26%	58,294	42,535	15,709 37%
其ノ他鋼板	33,100	28,983	4,117 14%	98,310	77,602	20,708 27%
棒鋼	45,355	61,456	△ 16,101 26%	134,197	165,133	△ 30,936 19%
形鋼	24,181	18,210	5,971 33%	73,653	58,442	15,211 26%
軌條	31,111	28,251	2,860 10%	81,585	74,316	6,969 9%
線材	10,925	5,479	5,446 99%	27,649	15,609	12,040 77%
鋼管	8,367	5,883	2,484 42%	23,629	15,885	7,744 49%
其ノ他	2,277	2,424	△ 147 6%	6,200	8,503	△ 2,303 27%

備考 △印ハ減ヲ示ス。